



なきごえ

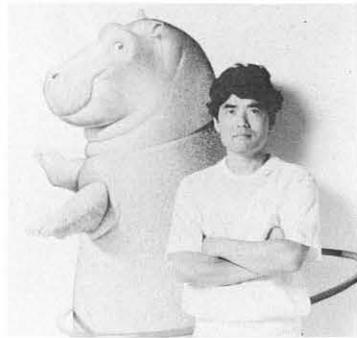


1988

11

大阪市
天王寺動物園協会

佐藤 邦雄



箕面市に住んでいます。近くに日本庭園がガラスごしに見える喫茶店があります。そこで庭園を見ながらお茶をのんでいると、イタチが草むらに立っていました。よく写真で見るオコジョのようでした。飼っているのかなと店の人に聴くと、店の人は見たことがないということでした。そのイタチは可愛く見えました。でも田舎に住んでいた子供のころ、飼っているにわとりがイタチによく襲われ、腹だたしさと、憎しみを持っていたので、イタチは悪役でした。そのころ住んでいたところは、四国の屋島の海の近くに、民家が四軒ほどでそこから段々畑でした。ある時イタチが家より出て、段々畑に出ているのが見えました。僕達4人の子供は棒を持ってイタチを追いました。家の間を走るイタチはすばしっこく、忍者のようでしたが、稲を刈られたあとの障害物のない段々畑を走るイタチは、敏捷なところもなく、かくれるところもない広さにとまどっているようでした。それを見た僕達はイタチの弱さを見た思いで、あの悪をこらしめたらうと俄然元気づいて、追いかけてきました。かくれるところを探そうと逃げるイタチは、丸いふたのないこえつぼの中に落ちて、そこへ僕達が石を投げ、イタチは溺れて死んでしまいました。でも死んだイタチを見て、あの悪のイタチを退治した思いと、かわいそうなことをしたようで、あんなんでよかったんやろかという思いをしたのをつい

こないだのように思い出していました。動物園の思い出は小学校の修学旅行のこと。それは四国から京都、奈良、大阪への旅行でした。いろんなところへ連れて行ってくれましたが、長い間頭のすみにこびりついていたのは、大きなヒグマとコンクリートで作った恐竜でした。大人になって大阪に出てきて、あれはどこにあるんやろうかと、動物園まわりをしました。ありました！ 大きな大きなヒグマと思ったのは、京都の動物園のヒグマでした。コンクリートの恐竜は大阪の天王寺動物園にありました。田舎では牛、馬はよく見ていたのに、象を見てもびっくりしなかったのに、あのヒグマを見てびっくりしたのは、熊の大きさはこれぐらいと決めていたのに、スケールがちがったからなのか自分でもよくわからないのです。コンクリートの恐竜は、今まで本では見ていたのですが、立体となっているのを見て、僕の想像力をかりたてたようです。映画で見た「恐竜百万年」の中にはっていました。この前に動物園に行ってみると、この恐竜はなくなって、きれいな大きな鳥の家になっていました。鳥の家もすばらしかったのですが、あの恐竜はどこか小さな山の上にもいると似合うと思うのは、僕だけなんでしょうね。でも何か残念ですね。今僕は動物を擬人化したイラストを描いています。子供の時自分が一番感じ興味をもったものを、テーマにしてイラストを描き又それが仕事になっている。色々思い悩んでこの仕事にきたようですが、やはりこれでよいこれ押し進めていってみようと、そして飼っていて今は天国に行ってしまった動物たちを時々思い出し、今家にいる2匹のリスマイツかは死んでしまうのでしょうか。飼うということは、死を見ることができ、可愛いのですが、つらいことでもあります。少しでも幸に、天寿を全うすることができるようにしてあげようと思っている、今日このごろです。

(イラストレーター)

なきごえ11月号もくじ

動物と私 2
 “こんにちは！アメリカバクで〜す” 3
 動物園日記・動物園グラフ 4・5
 サルの母性について 6・7
 サルの飼育にたずさわって 8・9
 キーパーズ・アイ ㊤ 10
 動物園ニュース 11

表紙の写真説明

ボブキャット *Felis rufus*
 カナダの南部からメキシコの南部にまで広く分布している中型のヤマネコの仲間です。岩場や湿地、ヤブなど様々なところに住んでいて、ネズミの仲間や小形の有蹄類それに鳥などを獲って食べます。

(撮影：長瀬 健二郎)



“こんにちは！アメリカバクで〜す”

9月19日午後、アメリカバクにオスの赤ちゃんが生まれました。その姿は縦じま模様の「うり坊」。親とは大変な違いですが、この模様も半年を過ぎるころから消えていきます。写真は出産当日のもので

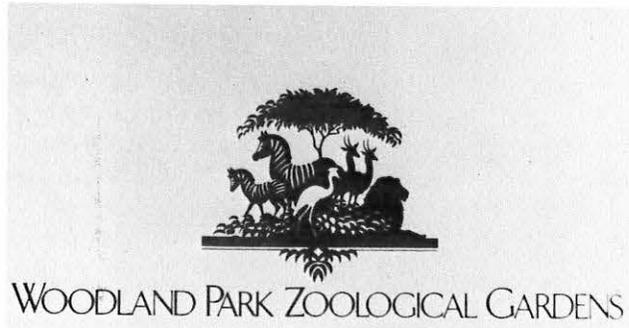
(撮影：森本 委利)

動物園グラフ

なぎごえ24(11).1988

世界の動物園のシンボルマーク

現在世界中には約640の動物園があるとされています。ほとんどの動物園がそのシンボルマークを定めていますが、今月はその一部をご紹介します。当園のシンボルマークは表紙の左肩にあります。(撮影:大川 光雄)



アメリカ・ウッドランドパーク動物園



スペイン・バルセロナ動物園



東ドイツ・東ベルリン動物園



オーストラリア・カランビン野鳥園

8・9月の動物園日記

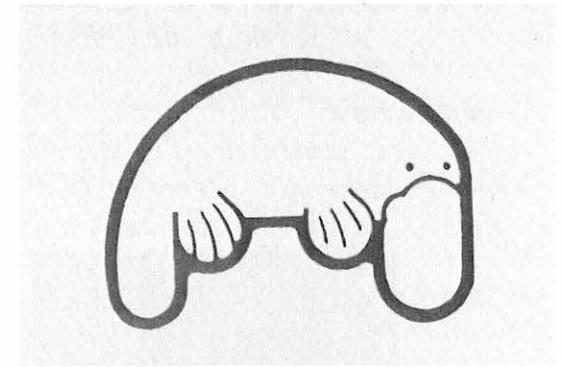
- 8/28. エランドのおなかが開ってきたため、早速治療を行いました。
本年ふ化したアカアシコガモに足環をつけて、バードケージ“鳥の楽園”に放しました。
- 8/29. 職員の研修が行なわれ、講師にお招きした愛媛県立砥部動物園、山崎園長から「砥部動物園への動物の移動」と題した講演を聞きました。
- 8/31. タスキを1頭保護しました。

- 9/5. キーウイとハリモグラの体重測定を行いました。
- 9/8. 中国動物園協会常務理事の何光昕氏他1名が来園され園内を見学されました。
- 9/10. カワセミを1羽保護しました。
- 9/11. コヨテのオスの衰弱が目立ってきたため、治療を始めました。
- 9/12. オオサマペンギンが7月22日に産卵し抱卵を続けていましたが、卵が割れ、無精卵であったことがわかりました。
- 9/14. 税関より、ワシントン条約にかかわる輸入

なぎごえ24(11).1988



アメリカ・ブルックフィールド動物園



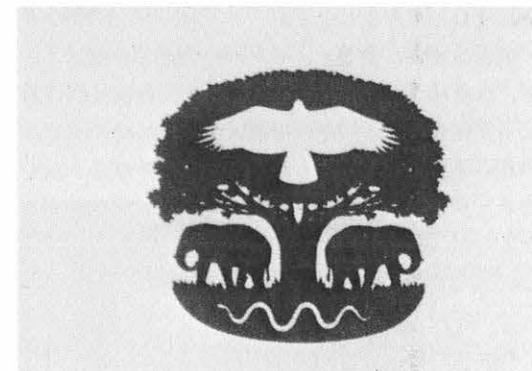
オーストラリア・タロンガ動物園



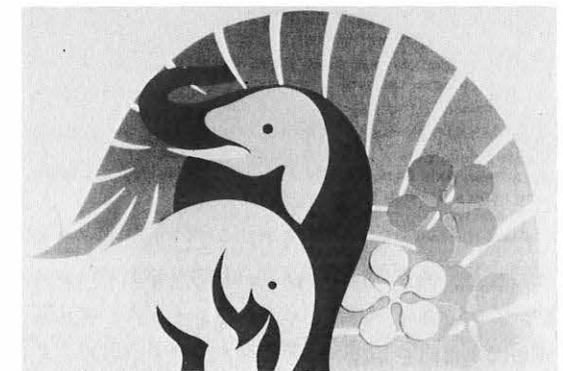
西ドイツ・フォーゲルパーク



西ドイツ・ケルン動物園



アメリカ・サンディエゴ動物園



シンガポール・シンガポール動物園

- 品についての、同定依頼がありました。
- 夏期の学生病院実習が終了しました。
- 9/16. 7月19日生まれのヒョウの子供と、8月10日生まれのハクビシンの子供の一般公開が行われました。
- 9/17. 第7次動物交換で上海動物園に贈られるカリフォルニアアシカ2頭を、同園で与えられている餌にならすため、隔離しました。
- 9/18. 第41回動物のお話とスライドの会「食欲の秋:天高くカバ肥ゆる秋」を開催しました。
- 9/19. アメリカバクにオスの赤ちゃんが生まれま

- した。
- 9/20. アメリカバクの赤ちゃんの哺乳を確認しました。体重測定もしましたが8kgありました。
- 9/23. 動物総合感謝祭が開催され、慰霊祭では、動物代表としてチンパンジーのメス“ミナミ”が参列し、玉串を奉納しました。
- 9/24. アカエリヒレアシギ1羽とオオルリのメス1羽を保護しました。
ワライカワセミのヒナの性鑑別をしました。
- 9/26. アメリカバクの子の一般公開が行われました。

1. 可愛らしさの意味

私たちにあって、動物園を訪れることの最大の楽しみの一つが、動物達の赤ちゃんを間近から見ることにあるということに、異を唱える人は誰もいないと思います。

実際、動物の赤ちゃんの可愛らしさには、思わず口元がほころんでしまいます(写真1)。この「可愛らしさ」というごく自然にわきあがってくる感情、それが自然で抵抗しがたいものであるだ



ニホンザルの赤ちゃん

けになおさら、その存在が大きな意味をもっているように思われます。動物たちが必ずしも、私たち人間が感じているのと同じように、自分達の赤ちゃんを可愛いと感じているという保証はありませんが、しかしながら動物をよくみてみますと、彼らも彼らなりのしかたで可愛らしさを赤ちゃんに感じていることが容易に推察されます。

では、この可愛らしさの「わけ」は一体何でしょう？なぜ、赤ちゃんは可愛いのでしょうか？ その疑問を解く鍵は、可愛らしさが親をはじめとする周囲の個体に何をもちたらし、またそのことが赤ちゃんに何をもちたらし返すか、にあります。

私達の脳という高性能のコンピューターは、例えば小さく丸まるした体型、ぎこちない動きや体には不釣り合いなほど大きな頭、大きな目、それとは対照的な小さな鼻や口、柔らかな体毛、などといった赤ちゃん特有の情報の入力から可愛らしさという感情を生み出す方程式を備えているようです。しかし、他の動物では、赤ちゃんが目も開かず、毛もほとんど生えていないような姿で生まれてくるものもあり、それは私達の方程式にはなじまないものの、その親たちにとってはそれなりに「可愛らしさ」と映って

いることでしょう。

この可愛らしさというものの正体をもう少し科学的に、しかも平たく表現するならば、それは赤ちゃんに対して「保護」や「世話」をしたくなるような心の動き、とでも言えるでしょうか。それが母親によって示されるとき、それを私達は「母性」と表現します。そして、赤ちゃんの体やしぐさの特徴によってもたらされた保護や世話の行動が、その赤ちゃんの生存をより確実なものにするのに役立つことは、言うまでもないでしょう。つまり、赤ちゃんの可愛らしさは、母親などの個体に対して働きかけ、未熟な彼らの生存をサポートするようにしむける一つの重要なきっかけとなっているのであり、それに反応する母親の性質が母性と言うわけです。以下では、私が行ったニホンザル母子の行動観察の結果を、ごく一部ではありますが紹介して、それをもとに彼らにおける「可愛らしさ」と「母性」の一端について触れてみましょう。

2. サルにおける「可愛らしさ」と「母性」

ここでは、話を簡単にするために、今述べた「世話」「保護」を代表する親の関わりとして、親が子を自分の手元に保持する行動、すなわち「抱く」行動に注目してみましょう。

私達の観察によると、サルの母親が子を抱くことは、出産後ほとんど直ちに始まって、以後長期にわたって続きます。初産の母親は、出産の時に少しは戸惑いを見せますが、それでもちゃんと赤ちゃんを抱きとります。

ところが、自分が赤ちゃん時代に母親との接触を断たれて育った雌は、自分の初めての出産場面で決して子を抱くことができません(写真2)。生まれた赤ちゃんは別に普通の赤ちゃんなので、子を抱けないのはその母親の中の、



出産場面で子を抱かない母親

可愛らしさに反応するコンピューターの方に問題があると云わざるを得ません。母性とは、このように母親自身の社会的経験によって影響を受けるものなのです。

いささかグロテスクな話で恐縮ですが、私は飼育下のサルの子が何らかの理由で死亡したときに、しばらくの間その子を母親の元に置いたままにしておいて、その子に対してどんな関わりを母親がとるのかを観察したことがあります。死んだ子に対して、多くの母親はそれでも数日間は抱く行動を向けました。子のぎこちない動きというものは、母性を引き出すための必要条件ではなかったのです。子の死に際し、われわれが「死」に対して持つ恐れや哀しみのようなものは、彼らの行動からはうかがうことができませんでした。さらに驚いたことに、やがてその子たちは、多くの場合当の母親によって食べられてしまったのです！ しかもその際には、以前より母性豊かに行動していた母親の方が、その食べる傾向もより強いように思われました。われわれの感覚からすると狂気としかいいようのないこの母親の行動には、実は「母性」の本質に迫る深い意味が暗示されているように思われてなりません。

3. 離乳について

子を抱く行動は、生後しばらく濃厚な形でみられますが、やがて徐々に少なくなっていきます。それはもちろん、母親から離れて外の世界に飛び出していこうとする子自身の変化によることも大きいのですが、それとても母親が子を拒絶することによ



母親による子への攻撃

て大いに促進されます(写真3)。このような母性的反応の変化は、子の可愛らしさが減少した結果起こる部分もあり、母親自身の内的な変化による部分もあることは容易に想像されますが、そのあたりの相

互影響関係はまだ詳しくは調べられていません。

いずれにしても、そのような母親の行動の変化は、子の自立を助け、離乳の進行を促進させます。子を抱いて運んだり、母乳を子に飲ませる、といった母親の関わりは、母親にとって決して小さくない負担です。それを母親があえて引き受けるのは、そのことによって子の生存の可能性が高まることから、母親にとっても生物学的に大きなメリットであるからに違いありません。しかし、もし母親に繰り返し繁殖する能力があれば、いつまでも特定の子にだけかわわっていることは、あまりよいことではありません。なぜならば、せつかくの次の子育てのチャンスをみすみす見送ることになるからです。また、いつまでも母親から離れられないということは、子にとっても自分の繁殖能力を限定するということにつながり、得策とはいえません。子は、適当なときに母親から離れ、自分自身で群れのルールを学び、仲間との関



子ザル同士の遊び

係を作り上げて行くべきなのです(写真4)。先ほどから、母性を子の可愛らしさに反応する母親の性質だ、というようにしてとらえてきましたが、このようにみえてくると、一見邪険に子を拒否する母親の行動も、子を保護するのはまた一風変わった意味での、つまりより大きな枠組みの中での、母性としてとらえるものではないでしょうか。

このように、サルの母子を見、その中で可愛らしさと母性の関係を考えると、それが決して対岸の出来事ではなく、私達の人間性を考える上でも、いろいろなヒントを与えてくれるものであることがおわかりいただけたと思います。動物を見ることの喜びは、そんなところにあると私は考えています。

(武庫川女子大学文学部講師)

サル飼育にたずさわって

§ 旧サル舎

サル飼育にたずさわるようになったのは、かれこれ8年前のことです。その当時、サル舎は、猿猴舎と呼ばれていて、南に向け弓状に拵った建物で、16種のサルが飼育されていました。しかし、キーパー通路が狭く、建物の天井が低いため、かがんで作業することが多く、腰を悪くしたこともありました。通路内は夏場は40℃を越え、冬場は0℃以下になることもたびたびで、サルは冬場によく凍傷になり、尻尾を落したりしたものです。又、グランドでは隣のオリとの境が網だけなので闘争が絶えず、指をかまれてちぎられたり、尻尾を引っぱられて、切れてしまったり、といったトラブルが時々ありました。その当時のサルはマントヒヒ、ドリル、マンドリル、



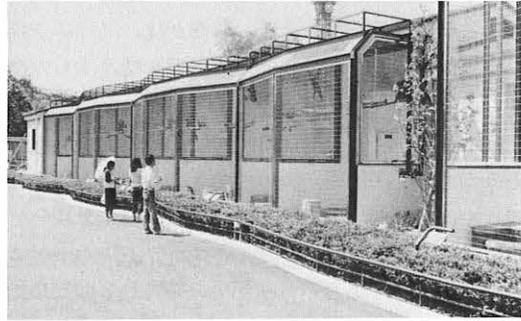
旧サル舎

アジルテナガザル、サバンナモンキー、バタスザル、ブラッサグェノン、スーティマンガベイ、ムーアモンキーとクロザルの雑種、カニクイザル、ブタオザル、シシオザル、フサオマキザル、ケナガクモザル、フクロテナガザル、フランソワルトンでフランソワルトン以外は冬場の暖房がなく、かわいそうな思いをさせたものです。それが新しいサル舎が出来ることになり、サルが住みやすくなるのでは、と喜んだものです。

§ 新サル舎

グランドは4mと5mあり、南向きでよく陽があたります。金網は以前のような鉄ではなく、ステンレスで隣のオリとの境も20cm近くも空けてあるので以前のようなトラブルもなくなりました。キーパー通路は幅180cmと大変広く、天井も高くなりました。又、寝室に至っては天井がガラス張り寝室にいても陽が良くあたり、フローヒーターと、遠赤外線ヒーターまで完備されています。洗浄も以前はホースで水をかけ、デッキブラシでこすって汚れを落していたのですが、新しいサル舎では高圧洗浄機という新しい機械が入り、以前よりは時間が多少かかるものの、大変美しく清潔に清掃ができるようになりました。

捕獲に際しても運動場から寝室への通路であるシャウトに捕獲檻を入れ、1週間も出入りさせれば慣れてくるので簡単に捕獲ができるようになりました。しかし、新しい建物には14種しか展示することが出



新サル舎

きません。従って2種のサルは他の動物園に出さなくてはならなくなりました。それが担当者にとってははなによりもつらいことなのです。どれを出すかは直ぐには決まりません。色々と考え、悩み、クロザルとケナガクモザルの2種を出すことになったのですが、決定してからもつらくてしかたがありませんでした。でも、それが彼らの運命なのだから新しい所で元気に育ってくれば、それでいい、と自分で自分を納得させたものです。

§ フランソワルトンの誕生

この8年間には色々なサルと出会い、楽しい思い出や悲しい別れが沢山ありました。先ずは楽しくうれしかった話からしたいと思います。

それは今から5年前になりますが、中国の上海動物園からフランソワルトンというサルが親善動物としてやってきました。このサルは木の葉を主食にして樹上に住み、尻尾が大変長く、頭部には冠毛があって体全体が黒い毛におおわれている珍しいサルです。サルには珍しく胃がふくらんでしまう鼓張症という病気を起し易く、飼育や治療がむずかしいと、分った時には大変な奴が来るんだと悩みました。収容にあたって今までいたアジルテナガザルを他の場所へ移し、グランドの金網を補強し、寝室やグランドを消毒しました。そして、遠赤外線ヒーターまで準備され、親善動物の大切さを痛感させられました。フランソワルトンは上海動物園の使節団の方々とう当園にやってきました。フランソワルトンの輸送箱は大変美しく、家具を思わせるもので箱の中央に「黒葉猴」と記してありました。体毛の色と食性を考えると、なるほどとわかる名前でした。上海動物園の方にフランソワルトンの飼育法を聞いてみると高温、高湿それに低温に弱く、エサもむずかしく、好んでおにぎりやコーリヤン団子を食べ大量の水を呑むと教えられましたが、実際に飼育してみると、気温の心配は余りなく、真冬の雪の日でも平気でグランドで遊んでいました。食性においても普通のサルとほぼ同じ餌で十分でその他、モチの木葉をやるとう喜んで食べました。ただ赤色の食べもの、例えばイチゴ、トマト等を与えると奇声を発して逃げまわります。

それから3年たった9月の朝、いつものように寝室側の通路からフランソワルトンの寝室をのぞくと、

メスザルが黄金色の異物を抱いているのです。最初

はキュービーのおもちゃでも抱いて遊んでいるのかと思っていたのですが、それが動き、声を出すのです。そうです。赤ちゃんだったのです。驚きながらもじっと観察したところ、体毛が黄金色で頭部に冠毛があり、



クリクリとし キュービーのようなフランソワルトンの赤ん坊た可愛い眼をしていることが分かりました。こんなうれしいことは今までサルを飼育して初めてのことでした。その後、昨年3月3日に黄金色のメスの赤ちゃんが生まれました。今では2頭とも成長し、両親と同じ真黒な体になり、元気に母親や父親の尻尾を引っぱって遊んでいます。

§ ブタオザルの群復帰

その他にも楽しくてうれしいことは沢山あったのですが、今年は特にうれしいことが続きました。そのひとつは昨年、枚方パークのご厚意でお借りしていたシシオザルが3月19日にオスの赤ちゃんを生んでくれたことです。それまでシシオザルは日本には19頭しか飼育されておらず、その内繁殖可能なものは枚方パークと当園にしかいないと何とも聞かされプレッシャーを感じていたものですから、そのうれしさはひとしおでした。でも生まれたら生れたで親がうまく育ててくれるか不安になってきます。余り上手とはいえない抱き方で哺乳の確認もなかなかできません。しかし、日がたつにつれて母親らしく上手に抱き、哺乳をさせるようになりました。生まれて始めのころは肌色の顔をしていたのですが、だんだんと仔ザルの顔が汚れたように黒くなってゆきました。今では生意気にもオス親にちょっかいを出したり、メス親の尻尾を引っぱっては逃げまわり、食欲も旺盛で、跳んだり、跳ねたりの毎日です。

2番目のうれしいできごとは、ペットで飼われていて当園にきたブタオザルが群に戻って平穏な生活を送っていることです。このブタオザルは大阪府堺市附近でペットとして飼われていたのですが、飼主にダンボール箱に入れて捨てられていた所を、近くの中学生在が見つけたのですが、その中学生にケガをさせて警察に捕獲され、当園に預けられたのです。目つきが悪く、よく上目使いに、にらみつけ、私にらみ返すとソッポを向くというように、ふてくされていたのですが、いつまでも一頭で飼うわけにも行かないためブタオザルの群に入れることにな

りました。その当時、ブタオザルの群にはオスがおらず、12歳と6歳と2歳のメスが3頭いたので簡単に一緒になって群を構成すると思っていたのですが、1週間の見合い期間が短か過ぎたのか、それとも、サル社



シシオザルの赤ちゃん

会のしきたりを知らなかったからか、同居1日目は餌を全然与えてもらえず、2日目にはメス3頭に噛まれ全身傷だらけになってしまいました。しかたなくとり上げ、再び一頭で飼うことになったのですが狭い檻にいつまでも入れておけないので日光浴と運動のために、腰輪をつけて散歩させようとするとう、不安なの手をつないできます。その時、このサルはこのままではいつまでたってもブタオザルの群へは戻せないと思ひ、それからはグルーミングを教えることにしました。天気の良い日は係員室の近くにつなぎ、暇があればグルーミングを教え、それが終わると、私にグルーミングをさせたものです。

そうこうするうちに暑い夏がやってきました。体が臭くなって来たので、体を洗ってやろうと水槽に水を入れて、シャンプーで洗ってやっているうちに、突然、潜りだしたのです。それからは毎日水に潜って遊びます。それがマスコミに知られ、少し有名になったので同居の機会を失い、延び延びになっていたのですが、今年の8月に人事異動で代勤者が変わることになったので、これを機会に再び群と同居させることにしたのです。今回は21日間という長い見合い期間とグルーミング等色々サル社会のことを教えたのでうまくいったのかも知れませんが、同居の初日はメス2頭が逃げまわり、2日目にはメスがプレゼンティングまでするようになりました。それから順調に同居は進み、現在は交尾も行ない、立派なオスの様子を見せています。来春にでも子供が生まれればと期待しています。

§ 終りに

最後になりましたが、悲しいことも数々ありました。しかし、ほとんどが死別の悲しさですので、早く忘れるようにしています。これから先、私自身がいつまでサルを担当するか、分かりませんが、次第に動物の輸入が困難になってきています。従って一頭でも多く繁殖をさせ、種を減ぼさないよう努力して行きたいと考えています。

(飼育課：原田 勉)

☆ゾウの器用さ

陸上で最大の動物と言えばゾウです。ゾウにはアフリカゾウとアジアゾウの二種類がありますが、当園の3頭のゾウはすべてアジアゾウです。今回はその中の1頭、春子を紹介します。

いつもの様に寝室へ収容してエサを与えていた時のことです。この日は管理係の人が作ってくれたブドウをゾウにくれたので、春子にも少し与えてみました。春子はすぐにブドウを鼻でまいて口へ入れようとしましたが、10粒位ブドウが鼻からこぼれてしまったのです。

春子は鼻で持っていたブドウを再び床にもどし、ブドウをひとまとめにして、足元にあった乾草をブドウの上へかぶせ、ブドウが鼻からこぼれないように乾草でブドウを包んで、器用に鼻を使ってブドウを落さずに口へポイ。「おかわりは？」といった感じで鼻を出しました。

確かにゾウは賢い動物ですが、こんな行動をするとは思ってもみませんでした。私達は今後も彼女らのこういった行動を観察していきたいと思います。



(飼育課：東 政宏・柴田 総・小谷信浩) (イラスト：中村尚美)



☆クマさんのお食事



クマたちは夕方エサを持って行くと「早くエサを食べさせて」と扉を爪でひっかいたりして催促します。扉を開けてやると急いで部屋に入って来てエサにとびつきます。クマ舎で飼われている6頭とも、食べ方にそれぞれ特長があり、ムシャ、ムシャとあつという間にたべ終るクマや、ゆっくり時間をかけるクマ、パンを水にひたしてから食べるクマ……といった具合に1頭1頭個性的な食べ方をしています。中でも、マレーグマのメスは部屋の角に背中をくっつけ、ちょうどイヌがおねだりをする時のチンチンの格好で座って食事をします。大好物のリングオやイモなどは人が物をつかむように、前足を上手に使って食事をし、食べ終わってお腹がふくらむと、ゴロンと横になったり、うずくまったりして休みます。

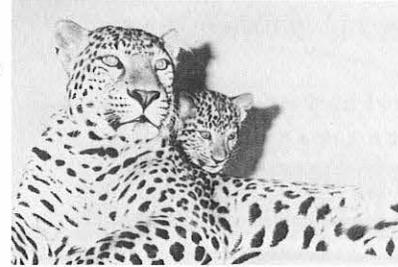
今日も一日、お疲れさま。

(飼育課：土谷 正道) (イラスト：中村 尚美)

§ ヒョウ、ハクビシン一般公開

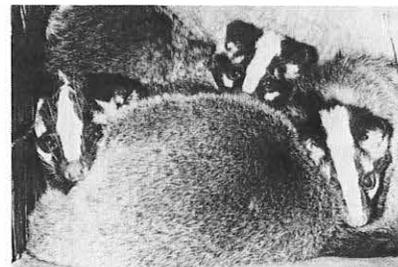
9月16日にヒョウとハクビシンの赤ちゃんを一般公開しました。

ヒョウの赤ちゃんは7月19日に3頭(オス1頭、メス2頭)生まれました。惜しくもメス1頭が生後40日に死亡しましたが、残る2頭は順調に成育し、生後約2か月目の9月16日から一般公開しました。オスは「ジョルジュ」メスは「モモ」と名付けられた2頭のかわいい赤ちゃんは初めて屋外に出てちよ



っとまどい気味でしたが、母親にじゃれつく姿は大変ほほえましく、人気を集めていました。ところが残念なことに公開後2日目の9月18日にオスの「ジョルジュ」が急死しました。

一方、ハクビシンは8月10日に生まれましたが、落ち着いて出産、育児ができるように出産前から小型ネコ舎内の隔離室に収容していたものです。生後1か月を過ぎ子供もかなり大きくなったため同じく9月16日より一般公開しました。両親は共に昭和57年9月18日に来園したもので、昭和60年以降毎年繁殖しており



今回が4回目の出産です。こちらも親子のほほえましい姿は人気を集めています。

ひとあし先に8月22日から公開したゴジャコウネコの赤ちゃんと合わせて小型ネコ舎とヒョウ舎の一角は赤ちゃん誕生でにぎわっています。

§ アメリカバクの赤ちゃん誕生

9月19日アメリカバクにオスの赤ちゃんが生まれました。当園でのアメリカバクの出産は昭和48年以来15年ぶり4度目のことです。両親は今年6月20日に横浜市の金沢自然公園よりお借りしたもので、母親は横浜で既に1産しており今回が2度目の出産です。アメリカバク特有のこげ茶にウリのような白い縦じまがあり、大きな頭とつぶらな瞳のかわいい赤ちゃんです。翌日には哺乳も確認されました。出産後、母子を寝室に隔離していましたが、9月26日

現在の飼育動物数

(昭和63年9月30日現在)

哺乳類	13目	104種	464点
鳥類	20目	198種	671点
爬虫類	3目	34種	87点
合計	36目	336種	1,222点

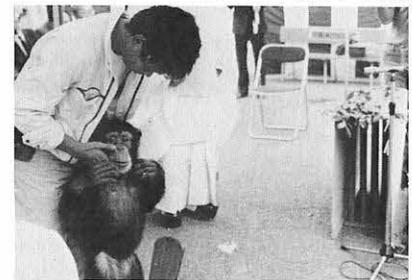


の一般公開しました。10月14日からは父親と同居させましたが、心配された問題もなく親子3頭のほほえましい

姿は人気を集めています。(3ページ参照)

§ 動物総合感謝祭

動物愛護週間中の9月23日に社団法人大阪動物愛護会の主催で、北園動物慰霊碑前で動物総合感謝祭が行われました。社団法人大阪動物愛護会名誉会長の大阪府知事夫人の岸富美子さん、名誉副会長の大阪市長夫人の西尾照子さんや多くの来賓の皆さんのご出席のもと動物感謝祭が行われ、動物代表としてチンパンジーの「ミナミ」が玉串奉奠を行いました。



感謝祭終了後、北園ステージで動物功労者、功労動物、動物愛護標語入選者、児童動物画入選者等の表彰式が行

われました。

§ コアラ舎建設工事すすむ

9月初めより本格的なコアラ舎の工事が始まりました。建設地は夜行性動物舎の南で、オーストラリアの民家を模した総工費4億6千7百万円、総面積890㎡の動物舎ですが、来年、オーストラリアのメルボルン動物園から贈られるコアラの来園までに完成する予定です。

● お知らせ

テレホンサービス実施中

8月22日から入園案内用のテレホンサービスを行っています。催し物、トピックスなど魅力たっぷりの動物園の案内を24時間行っていますのでご利用ください。

電話番号 771-9999

動物のお話とスライドの会

11月20日(日) ホッキョクグマの赤ちゃん

12月11日(日) この一年の出来事

時間：午後1時～2時

場所：北園レクチャールーム

* 休園日のお知らせ *

動物園の休園日は毎月第3月曜日(休日の場合は翌日)です。1月までの休園日は下記のとおりです。11月21日(月)、12月19日(月)、1月17日(月)。年末年始は12月29日から1月1日まで休園します。開園時間は午前9時30分から午後5時までで、午後4時に切符売り止めになります。

キップスは便利をかたちにしたカード。

近鉄グループカード
〈キップス〉
会員募集中

KIPPS VISA JCB

◎近鉄百貨店でのお買物が5%割引など、近鉄グループの特典いろいろ。

お問合せとお申込みは各店クレジットセンターへ

●アベノ店7階●上本町店11階●東大阪店本館●橿原店6階●奈良店4階●西京都店1階●東京店7階

近鉄百貨店

DEAR LIFE BOOKS



生態・飼育・図鑑 一つの本の
中にギッシリ

中川道朗・岩合徳光/監修
B5変型判・オールカラー
定価580円

動物園で暮らす様々な生き物達、自然の中ではどんな暮らしをしているのか？動物園での世話の仕方は？仲間はずれ？など、写真と精密イラストをまじえ紹介します。

くらしかいかたシリーズ<既刊本>

B5変型判・オールカラー・各定価580円

むしくらしかいかた

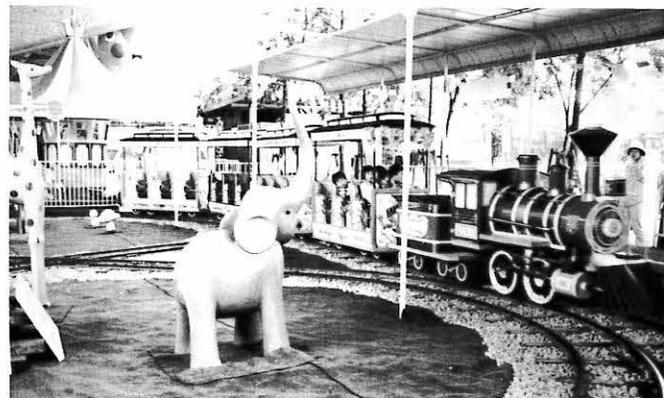
野山でみかける身近な昆虫たち
250種を紹介。

ちいさないきものくらしかいかた

昆虫以外の小さな生き物を320種紹介。

お求めは、お近くの書店で。 **ひかりのくに株式会社** 本社/〒543 大阪市天王寺区上本町3-2 ☎06-768-1151代表

たのしいのりものが待っています。



1人1回
100円
(1才まで無料)

団体割引
(30人以上)
……1割引

久竹娛樂株式会社
TEL (06) 541-3112

◎園内3ヵ所(南園入口横、北園ステージ横、北園高架下)に各種のりものがあります。

いま、フィルムは
頭脳をもった。



高画質時代をリードする

はるかに美しく

フジカラー SUPER HR

カメラの大林

桜橋本店 ☎341-8091
三番街店 ☎372-5031

平岩米吉 著 日本狼の正史ついに完成

改訂六版 **狼—その生態と歴史—**

定価 2,800円
A5判・本文320頁
口絵・挿画等140図

☆犬科動物の研究者として知られる著者が数十年にわたり収集した正確な資料を、生態学の眼をもって描いた空前の書。日本狼は、大口の真神とあがめられた古代より、のちには病狼と恐れられ、やがて絶滅に至るまでの経緯を詳述。

主な目次

- | | |
|----------------------------|------------------------|
| 序章 狼への幻想と現実 | 第一章 犬科の分類と解説 |
| 第二章 犬と狼の関係 家犬の成立 犬と狼の相違点 | 第三章 日本狼の歴史 古代の狼害と狼の神格化 |
| 第四章 狼狩の記録 江戸時代の狼狩り | 第五章 狼の伝説 間違いだらけの狼の姿態 |
| 第六章 日本狼の形態 日本における狼の研究 | 第七章 日本狼の絶滅 最後の日本狼 |
| 終章 狼を飼った人々 秩父宮殿下の狼。著者の飼った狼 | |

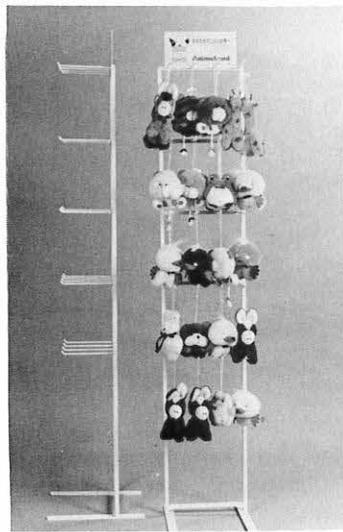
発行 動物文学会 〒152 東京都目黒区自由が丘3-12-2 電話(03)717-1659 振替東京5-9800 発売 (株)池田書店 〒162 東京都新宿区弁天町43番地 電話(03)267-6821 振替東京2-60072

- 貸出品目/ビデオ「動物園へ行こう」
①巻・20分(10本常備)
- 対象/保育園、幼稚園、小学校の先生
- 貸出期間/10日間
- 貸出料/無料(但し、郵送料450円は必要)
- 申込先/当協会まで、電話かハガキでお申し込み下さい。



大阪市天王寺動物園協会

〒543/大阪市天王寺区茶臼山町6-74 ☎(06)771-0201

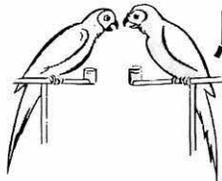


動物ぬいぐるみは 子供のゆかいなお友達

各種ぬいぐるみ企画・製造・卸

有限会社 **アニメランド**

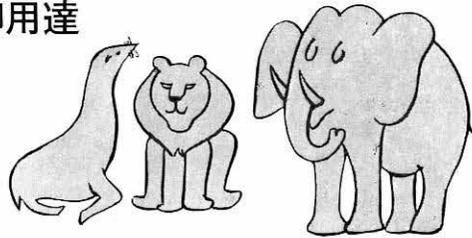
〒547 大阪市平野区西脇4丁目5番22号
TEL: (06) 704-8580
FAX: (06) 704-8565



鳥獣輸入

全国動物園水族館御用達

- ・医学実験用動物
- ・宣伝用、テレビ用、貸動物
- ・原色世界雑類図鑑(34種1枚もの)要郵便券250円

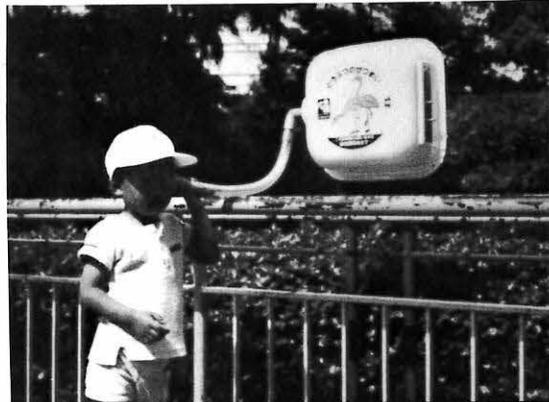


有限会社 吉川商会

本社 神戸市中央区中山手通3丁目11番4号
飼育場 兵庫県小野市来住町1513番地

電話(078)221-8195(代)

たのしい動物のお話は、
ガイドマシン(動物説明機)で、どうぞ!!



園内、主要動物舎
30数カ所にあります

関西特機株式会社
電話 06-762-2333
1回 20円

動物園内での お食事、ご休憩は

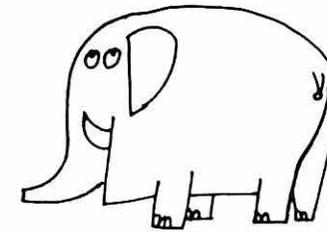
大阪市天王寺動物園内

中央売店

☎ (06) 771-0973



天王寺動物園内



南園売店

代表者 松谷良子

大阪市天王寺区茶臼山町6-74
電話 (06) 771-7110番

園内でのお写真は…

動物園協会指定写真部へご用命下さい!!



カラー写真 キャビネ1枚 500円

撮影無料にてキャビネ1枚をサービスさせていただきます。
撮影予約も受付しておりますのでご連絡下さい。

◎随時係員が待機して
おりますのでご説明
に伺いました際は、
よろしくお願ひ致し
ます。

国際航空写真株式会社

TEL 06-856-7444

もっと おいしく もっと 元気に!... 雪印



果肉とソフトヨーグルト
の名コンビ



雪印 ヨーグルト 130g・250g

おなじみの果肉入りヨーグルト

新鮮です、さわやかです。フルーツが入った、おしゃれなヨーグルト。

ホワイトを基調にしたシンプルなデザインで、ヨーグルトのさわやかさにもピッタリです。

野生動物をみんなで守ろう

WE SUPPORT WILDLIFE!

天王寺動物園協会の売店に“WWF国際保護動物ぬいぐるみコーナー”が新設されました。このぬいぐるみの売上げの一部はWWFJ(世界野生生物基金日本委員会)に寄付されます。すばらしい野生動物を私たちの手で大切に守りましょう。

ぬいぐるみ販売コーナー新設

お申込み、お問い合わせは——

社団法人 大阪市天王寺動物園協会
(天王寺動物園内) TEL (06) 771-0201

株式会社 ファミリア商事部
TEL (078) 321-0345

- お電話でのお申込みは動物園協会まで。
- なお、郵送の場合は実費を負担していただきます。



●WWF(WORLD WILDLIFE FUND)とは?
世界野生生物基金。世界中の危機に瀕している動物たちと、その自然環境を保護するための機関です。



なきごえ 昭和63年11月10日発行 (毎月1回10日発行) 第24巻 第11号 (通巻279号)

編集/大阪市天王寺動物園

発行人/大阪市天王寺動物園協会 中川道朗

印刷所/株式会社 松村善進堂 定価100円(送料共) 1年継続(12部) 1,100円(送料共) 振替口座 大阪 37823

〒543 大阪市天王寺区茶白山町6-74

電話 大阪 (06) 771-0201

振替口座 大阪 37823

編集委員 (土井良彦/伊東重朗/藤野勝吉/樽本 勲/中川哲男/斉田 尚/宮下 実/長瀬健二郎/榊原安昭)
森本委利/大野尊信/野口秀高/早川 篤/赤松 建/中垣圭史/大川光雄/山下賢二/土谷正道)